



特定非営利活動法人日本防災士会・富山県支部

富山県防災士会会報

第 17 号

平成 29 年 3 月 1 日
発行 富山県防災士会
連絡先 090-9762-8267
(事務局：佐伯)

平成 28 年度研修会

『 2016 熊本地震と富山 』

12 月 10 日、富山県民会館において、平成 28 年度研修会が開催された。会員 49 名が参加。京都大学名誉教授 川崎一郎氏をお招きし「2016 熊本地震と富山」についての講演があった。

熊本地震については、日奈久断層と布田川断層の活動が大きな被害をもたらしたが、新耐震基準で建てた家屋は倒壊率が 8%、旧基準では 32%であったことから、耐震補強の有効性が証明されたとのことのお話があった。



講演する京都大学
名誉教授川崎一郎氏

また、富山県については、呉羽山断層が活動した場合、西側隆起の逆断層であることから、西側 1.6m 隆起、東側 0.2m 沈下が予想されている。このことにより、神通川が下流隆起となり、富山大学附属病院や赤十字病院が大きな影響を受ける可能性があることや富山市街地の沈下したところの長期間の洪水、地盤の弱い射水市等の被害の拡大など様々の被害の可能性を示唆された。併せて、呂知瀉断層（石川県）が活動した場合は、氷見市、高岡市などの県西部に甚大な被害を与えることや、跡津川断層は約 150 年前に活動しており、至近で活動する可能性が低いとの説明があった。

最後に、熊本地震での被災者の例をあげ、親が亡くなった場合の子供の心的影響が計り知れないことから、子供のためにも親（含、定年退職者）が亡くならないように、耐震補強が必要であると締めくくられた。

講演後の当会員の懇親会では、川崎名誉教授をはじめ、竹内 章(当会顧問：富山大学名誉教授)も参加され、地震災害に向けての防災士としての役割について熱心に議論をかわし大変有意義な時間を過ごすことができた。

(記 上田)

会員相互勉強会

『 企業の防災対策と BCP (事業継続計画) 』 『 災害発生時の医療体制について 』

11 月 5 日、会員相互勉強会 (31 名参加) を高岡市福岡防災センターで開催し、本会会員の林 茂氏、野田隆志氏を講師として、「企業における BCP、企業防災、企業と地域の関わり等」、「大規模災害時の医療体制と現場での防災士の対応」について学んだ。



林氏からは、災害時の事業継続の必要項目として、企業が被災しても重要業務は中断させず、また迅速な復旧を行うために、①社員および取引先との緊急連絡網構築 ②日頃から復旧に

必要な発電機、燃料、飲料水、食料等の物資確保 ③災害時の取引先との協力協定締結 ④オフィス家具の転倒防止装置設置等の被災防止措置 ⑤実効性のある災害復旧訓練の実施 (年 2 回)、等の紹介があった。また、④のオフィス家具の転倒防止装置については実物が展示され、実際に揺らせることにより、装置が有効に働くことを見ることができた。



野田氏からは、①呉羽山断層帯と富山市内の主要医療機関との位置関係 ②災害時の医療体制 ③トリアージの方法等について学んだ。

断層帯付近や液状化危険地に立地している医療機関の災害時での有効性の問題や、トリアージ実施にあたっての必要な医療従事者確保等、災害時の医療体制には様々な課題があることを認識した。

今回の研修会では、企業活動継続の視点からの防災対策を学ぶことにより、今後の企業や商工会等からの防災講座要請への対応の参考となることや、富山でも起こりうる大規模地震災害での医療体制での課題解決について、深く考えることができた。(記 小林)

会 員
自己紹介

22年前の阪神淡路大震災を
体験して！

防災士(滑川市) 八木 里見

防災士になって4年。市町村の防災訓練や防災イベントの啓発活動には出来るだけ参加し、防災に関する講演があれば傾聴して知識を深めるよう努めています。

私は22年前の阪神、淡路大震災を体験、建物の4階で死を初めて覚悟しました。その後、体調を崩してしまい1年後に、後ろ髪を引かれる思いで富山へ帰りました。地震が今度いつ来るか不安で不安で、1年くらいは車庫に車を入れる事が出来ませんでした。車の中にテント、寝袋等キャンプ用品を入れて、2階の寝室の真下に置いて地震が来たら飛び降りれるようにしていました。今でも大きな音や揺れが恐怖です。6年前の東北地震の時も余震の度に家を飛び出していました。もう二度と震災前の生活に戻れない悲しさと悔しさ。あの時の無力感と後悔を、防災士として活動し次の地震に備えられたらと思います。



ジュニア防災フェスティバル

2月26日、富山県広域消防防災センターにおいて、消防防災意識の啓発を目的に富山県主催の「ジュニア防災フェスティバル」が開催された。内容は、消防車試乗体験・防災へり訓練実演・パネル展示・地図と防災パネル展示等のコーナーが設けられた。



本会は、このイベントに10名の会員が参加し、「防災関連パネル展示と防災グッズ手作りコーナー」を担当し、八木防災士のアドバイスのもと新聞紙によるスリッパ作りやゴミ袋カップ作り、笛作りを行いました。

お父さんやお母さんと一緒に製作に取り組む子供たちは、真剣そのもので、防災意識・地域災害への意識を高めるよい機会になったことでしょう。この様子は、5月6日の富山テレビ放送『BBT元気とやま みんなのクイズ』で放映される予定です。(記 島崎)

富山県防災士会10周年記念式典について

富山県防災士会10周年記念式典の概要が下記のとおりまとめましたのでお知らせします。

○期日 平成29年5月27日(土) 午後2時から
○場所 富山県民会館8階電気ビルレストラン
バンケットホール

○概要

- ・式典 会長挨拶
祝辞 日本防災士会
富山県危機管理課
- ・記念講演
「富山県の地震活動／熊本地震と富山の地震」
講師：富山大学名誉教授 竹内 章氏
- ・パネルディスカッション
「防災士に期待する」
パネラー：大木 英文氏（富山県危機管理課長）
大西 宏治氏（富山大学人文学部准教授）
尾畑 納子氏（富山国際大学社会学部教授）

お知らせ

2月14日、平成28年度支部長会議が東京参議院議員会館で開催され、浦野理事長より「都道府県支部旗」が各支部に授与されました。(尚、この事業は日本防災士機構の助成により行われたものです。)



左：浦野 修氏
日本防災士会理事長
中：小杉 邦夫氏
富山県防災士会会長
右：松尾 好将氏
日本防災士会副理事長

《編集後記》

避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン(平成27年8月内閣府)では、市町村長に避難勧告等を発令する権限が付与されていますが、避難勧告等には強制力はなく、最終的判断は本人自身に委ねられています。一方、自主防災組織には共助の重要性を伝えていますが、この場合生き延びることを拒む人は、残念ながら共助の対象にはならないことになります。今後、一人暮らし高齢者の増加が予想されます。共助のものと自主防災組織や自治会の重要な活動は、地域内の住民が住み易く思える地域づくりかもしれませんね。(Y)



平成29年度通常総会のご案内

- 日 時：平成29年3月25日(土) 午後2時30分～5時30分 ○場 所：富山県民会館 8階ホール
○内 容：第I部 特別講演 2時30分～3時30分
講師 「アジア子どもの夢」・「東北エイド」 代表 川渕 映子さん
演題 「被災地を支援して」
第II部 通常総会 3時40分～5時30分
○懇親会：富山県民会館8階「富山電気ビルレストラン」(総会終了後) 会費 5,500円